

防災会からのお知らせ

火災が多く発生しています。放火されない環境づくり、火災を出さない学習をしましょう。

1. 明るくしよう家のまわり

放火魔は、明るいところは人目につきやすいため、暗いところを狙います。日が落ちたら、玄関等の照明をつけ、放火魔を寄せ付けないように気をつけましょう。

2. 家のまわりの整理・整頓

家のまわりやごみステーションに、古新聞や、ダンボール等の燃えやすいものが乱雑に置かれていると、放火魔の格好の的になりかねません。日ごろから整理・整頓に気を配り、燃えやすいものを屋外に放置しないように気をつけましょう。

3. 笑顔でゴミの朝出し

よく収集日の前日の夜に、ゴミを出している光景を見かけますが、一晩放置されたゴミは放火される的となります。ゴミはきちんと決められた日の「朝」出すようにしましょう。

4. お隣と声をかけあって、守ろうわが街

日頃から、隣近所と声掛け合って不審な人物を寄せ付けない雰囲気づくりをしましょう。

5. 必ず入れよう 灰皿に水

火災の原因のうちタバコは、第2位です。タバコの火は、本人が消したつもりでいても消えていないことがあります。確実に消火するために、必ず灰皿には水を入れておくように心がけましょう。

6. 消えてから ストープの給油

寒い冬、面倒くさがって、つい火をつけたまま給油しようと思うことがあります。しかし、灯油があふれストーブの火が引火し、火災に発展する可能性があり大変危険です。ストーブの給油は、必ず火が完全に消えたのを確認してから行いましょう。



7. 暮らしの習慣 火の元点検

夜寝る前や外出する前などは、ガスの元栓、タバコの吸殻などの火の元点検を行う習慣をつけ、日ごろから火災の予防につとめましょう。

8. 経験で離れたすきが 天ぷら火災

天ぷら火災は、「電話がかかってきたときちょっとのつもりが長電話」といったときに起きています。天ぷら料理をしているときは、決してその場を離れないようにし、どうしても離れなくてはならないときは、必ず火を消すくせをつけましょう。



9. 子どもの火遊び 親の責任

小さな子どもの目から見れば、マッチやライターは格好の遊び道具です。「子どもだけに留守番をさせていたとき、火遊びから、子どもが亡くなってしまった。」といった悲惨な事故が後を絶ちません。マッチやライターは、日頃から子どもの手の届かないところに片づけておくようにしましょう。

まだまだ、寒い冬が続きます。「火の用心。マッチ一本火事の元。焼き肉焼いても、家焼くな！」をお忘れなく。